

全国的な学力調査の CBT 化検討ワーキンググループにおける検討について

1. 基本的観点

以下の観点を踏まえ、CBT 化に関する様々な論点についてどのようなパターンや選択肢等が考えられるか検討。

- (1) CBT の利点を活かすこと
- (2) 全国どこにおいても、安定的かつ継続的に実施できること
- (3) 学校現場の負担をできるだけ軽減すること

2. 主な検討事項例 ※準備・検討期間を要すると思われる事項から、順次検討

- (1) 日々の学習における ICT の活用と全国的な学力調査との関係
- (2) CBT の利点を活かした学力調査の在り方

○実施の仕方

- ・全国一斉実施の場合、一定期間内(複数回)実施の場合の論点

○調査問題

- ・全国同一の問題セットとする場合、複数の問題セットとする場合の論点
- ・CBT における出題方式・調査問題作成のパターンや選択肢について

○項目反応理論 (IRT)

- ・項目反応理論を導入する場合の利点や課題

○採点の在り方

- ・選択式問題・短答式・記述式の採点や、フィードバックの即時性に関する論点

○特別な配慮が必要な児童生徒への対応

- ・より丁寧な配慮を行うために、どのような方法が可能か

○問題作成の体制や工程

- ・CBT 化にあたり、必要となる基本的体制や工程はどのようなものか

(3) CBT 特有の課題・論点

- 調査資材の印刷、配送・回収、採点、集計、分析など、現在の一連の工程の効率化
- ・各作業工程について、どの程度効率化されるか

(4) 実施体制等

- CBT システムの開発 (業務管理、CBT、採点、集計・分析、問題プールなど)
- ・実施する際に必要となるシステムやパターンはどのようなものがあるか

- 実証実験、予備調査、試行等を含めたスケジュールや具体的な進め方

等